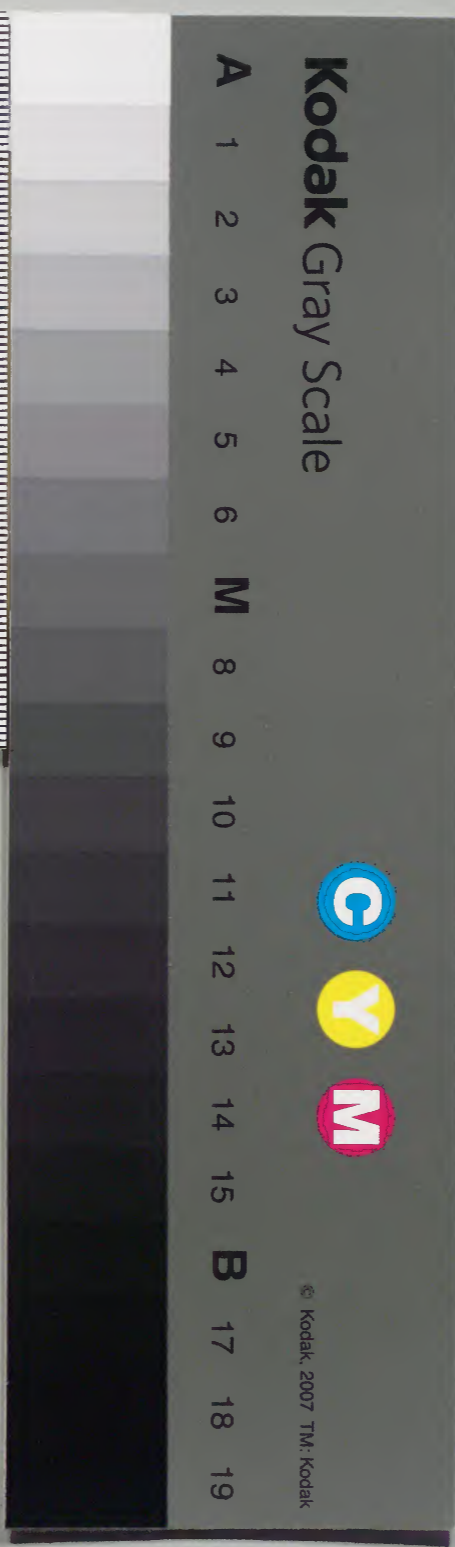


寛永諸家譜

諸流略圖
藤原氏總括并

内閣文庫	
番號	和 20199
冊數	186 (83)
函號	特 76 1



寛永諸家系図傳

藤原姓惣括

神代大祖稟系之圖

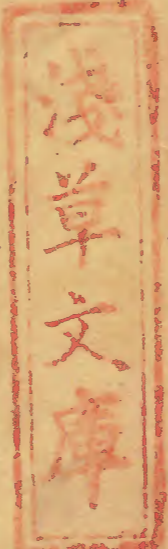


天神中全書

國常立書此涉別名也

天八下書

天三下書



天合為

天八百日為

天八百魂為

一説一 天八十魂為

津速魂命

市千魂命

居登魂命

一説一 真登魂命

天兒屋根為

天照右神天降ふれま八百神中
乃棟梁春日所のそれ一なり

天押言命

天多祢岐命

一説一 天多祢岐命

宇治津江命

御食津江命

一 宇治と小大此字とくふ

伊賀津江命

一 宇賀と香乃字とれと

梨途江命

神岡膳命

久志宇賀白命

國摩大鹿鴻命

江狭山命

一 説下 巨狭山也なり

跨耳命

一 説下 雷大匠命とれと

大小橋おほこしはし 今いま

阿麻呂あまろ 今いま 郷ごう

阿毘古あひこ 連れん

ト初はつの家系のけいは比ひ今いまとくふ一本いっぴん是これと除のぞ

大連おほれん

藤ふじ 大おほ 支し

黒田くろた 大連おほれん

常じょう 般はん 石いし 大連おほれん

一本いっぴん 石いし 般はん 乃の 字じ と 札しやく と

可多かた 能の 祐すけ 大連おほれん

あつひを方かた 子こ 大連おほれん と 札しやく と

御ご 食け 子こ 郷ごう

藤氏諸流乃元祖

元名中臣氏なり

天智天皇八年十月十五日小鎌足を

心大匠より任ぜし同日より中臣姓と

ありしをくわく藤原の氏とす

す

大織冠鎌足

一名小鎌子 正二位

孝徳天皇大化元年より心匠小任じ

天智天皇八年十月十五日大織冠

を任じしをくわく藤原の氏とす

同日より小鎌足とありしをく

藤原とす

同日十六日より蒙じ年五十六

不比等

右大臣 從二位 氏長者

崇光四年八月三日 薨 年六十三

日年十月 詔 正

一位 贈 文忠公 諡

遊 國十二郡 封

淡海公

武智麻呂

子孫を巻りみえり

右大臣 正一位

天平九年七月二十七日 薨 年五十八

平室字 四年八月七日 詔

右大臣を贈らる

南家 此より 兄弟の家より

有るあり 此より 世人南家と稱す

房前

冬議 從三位 氏長者

天平九年四月十七日小蒙と蒙五十七

日年十月正一位大任となくられ

食封二子戸とてこころる

三年宝字四年八月七日小蒙

大政大臣と贈らる

小蒙のうらめなちるれ第山りあ致

以て小蒙と稱と

宇合

本名と馬表 冬議 式部 正三位

式家れとめなり式部と稱と

以て式家と稱と

麻呂

冬議 兵部卿 從三位 右京大夫

京家乃とめなり大右京大夫とめ

以て京家と稱と

木楯

大綱たいこう 正三位

眞名

子孫しそん 甲卷こうまき 丙卷へいまき 正三位

右大臣 正二位

内麻呂

右大臣 從二位

眞夏

子孫しそん 庚卷こうまき 正三位

冬議ふゆぎ 從三位

冬嗣

右大臣 正二位

閑院いんいん 右大臣みぎのちみ 正三位

長良

子孫しそん 庚卷こうまき 正三位

從二位 權中ごんちゆう 紀言きごん

良房

攝政 太政大臣 從一位 贈正一位
謚一々忠仁公

良方

子孫庚卷
從五位上 大藏大夫

良門

子孫乙卷

内舍人 從四位上

基經

攝政 關白 太政大臣 從一位 贈正一位
謚一々昭宣公

忠平

攝政 關白 太政大臣 從一位 贈正一位
謚一々貞信公

多頼たより

攝政 右政大臣 小野文子おののふみこ

師輔しほ

右大臣 正二位 九條殿くじょうのどの
贈左政大臣正一位

師尹しゆん

子孫こそん 廣ひろ 卷まき 子孫こそん 有あり
右大臣 從一位 小一條こいちじょう 号なご

葱道むねみち

子孫こそん 丁ちやう 卷まき 子孫こそん 有あり
関白 太政大臣 從一位

葱家むねいけ

攝政 関白 太政大臣 從一位

道隆ちゆうりゆう

子孫丁卷しよんていまくら下しもみみををりり

攝政

右大臣

正二位

道敏ちゆうみん

子孫戊卷しよんごまくら下しもみみををりり

関白

右大臣

正二位

道長ちゆうちやう

攝政

右大臣

從一位

頼通らいちゆう

攝政関白しやうせい かんぱく

右大臣

頼家らいけ

子孫辛卷しよんしんまくら下しもみみををりり

右大臣

從一位

長家ちやうけ

子孫辛卷しよんしんまくら下しもみみををりり

大弼だいしやく

正二位

湯子ゆし下しもみみををりり

藤原氏諸流略図

甲 小家

山薩流

● 眞名

た太良 正二位 川邊大良と号すと

能鳥取

從五位上 中務少輔

藤成ふじなり

秀郷ひでさと流乃りゅうの祖そ
子孫しよん西し卷まき一いち三さん五ご五ご五ご

友嗣ともつぐ

参議さんぎ
右衛門ゑもん督とく
從四位上じゆゐのちがひ

高房たかふさ

坂さか本もと亮りやう
中ちゆう文ぶん亮りやう
正四位下せいゐのちがひ

山蔭やまかげ

中ちゆう細ほ气き
伊い達だつ乃の允いん祖そ
民部みんぶ卿きやう

时長ときなが

常陸ひろはつ公こう
正四位下せいゐのちがひ

利仁

加藤南藤等此名祖
子孫已世

乙 水家

良門流

良門

心合人 從四位上

贈太政大臣正一位

利基

右中納言 從四位上

兼輔

參議 中納言 左中納言 右中納言
右中納言 左中納言 右中納言 左中納言

藤

右大臣 正三位

贈右大臣 正一位 勸修寺 右大臣

利世

井伊乃左祖

定方

右大臣

頼

大辨

為

中納言

説ことば書しよ

権ごん磨ま書しよ

大辨

上うへ校けう如に凡ぼん宅たく間ま等とう此こゝ名な祖そ

宣のたま書しよ

大辨おほの権ごん依よ

澄すみ光みつ

大辨おほの依よ

澄方しやうほう

右馬権左みぎうまごんざ

為房ためぼう

冬議ふゆぎ

長澄ながしやう

同膳守どうぜんしゅ

顯時あきとき

権中納言ごんちゆうなごん

中山の元祖なかやまのげんそ

中山中納言なかやまちゆうなごん

藤成

伝珠守

從四位下

能馬取

山陰海乃祖甲卷

眞名

丙

秀郷流

水家

豊澤

下野少掾 従四位上 内侍

村雄

下野大掾 従五位上 河内守

秀郷

鎮守府將軍 従四位下 武藏守

とめては列田原より治とこれ
田原藤太と号しはあき
遠の字と云

千時

あまは子晴と号し
鎮守府將軍 智時

千清

右軍右衛門

正頼

下野守 從五位下

於遠

經清

下總國守 直理檢大友

清瀨

淡路國守 押從使

基瀨

右羽左押從使

秀瀨

鎮守府右軍

新清

從五位下

新清

たをり豊

新清

心藤揆校

心友此祖

季清

たをり

季清

系圖一たをり

惟賢

惟七 たをりくは列蒲生郡とたをり
惟賢 惟七 たをりくは列蒲生郡とたをり
惟賢 惟七 たをりくは列蒲生郡とたをり

惟賢

惟賢

惟賢

千常

鎮守府將軍

左衛門尉

從五位下

文脩

鎮守府將軍

口念人

文正

從五位下

左衛門尉

乙光

從五位下

相模守

脩行

左衛門尉

左衛門尉

近藤の祖

左衛門尉

左衛門尉

左衛門尉

左衛門尉

号

以景

景親

上東門村

鴻田権守

景重

鴻田 八郎太夫

景於

武者所

能成

能成

大友の景

大友

豊前守

於平

大友の景

武者所

武藤北祖 武者所 下 小 久 久

武者 久 久

二清えん

右邊尉

伊波いばと号ごうす

錦鴻にしんこう伊波いばおれおれ元祖げんそ

季清きせい

康清やすせい

右邊尉

右邊尉

義清ぎせい

右邊尉

鳥羽院とりの乃の下げ小面せうめん

右邊尉みぎのへと号ごうす

大室おほむろ房ふらうと称なづす

助清すけせい

主馬首しゅまごう冬列ふゆり小頃せうこうと号ごうす

右邊尉みぎのへと号ごうす

右邊尉みぎのへと号ごうす

助道

首夜燈寺

於義の臣此郎從七騎の心なり

親清

首夜燈寺 仁孝尉

通清

徳田権守
徳田礼祖

正清

仁孝尉

義通

山内 刑部丞

山内 礼祖

公澄えい。

従五位下 大守尉

長谷川伊左衛門中野等の祖の

経範けい

兵庫助い

経秀けい

氏部丞え

秀遠しゆ

刑部丞けい

遠義えん

筑后守ちく

義通ぎ

波多野三郎

従五位下

波多野此祖の

義經ぎ

太右衛門たい

有經ゆう

松田三郎

松田乃祖の

義元ぎ

伊弉檀守い

義定ぎ

刑部丞けい

秀高ひでたか

山城権守やましろのけんしゅ

義秀よしかず

河村三郎かわむらみさぶろ

河村今村亦乃祖かわむらいまむらよのそ

龜光かめみつ

法守府將軍ほつしゆふじん

法興ほつこう

法興ほつこう

賴仍らいに

鎮守府將軍ちんしゆふじん

行則ゆきのり

壹波守いちなみしゅ

石田いしだ

龜仍かめに

從五位下じゆいごひげ

源名正げんなまのただし

河守

太田大夫

下野介

河政

太田大夫

河光

太田四郎

河方

下総権守

河基

高柳三郎

高柳の祖

政光

小山四郎

下野大掾

物政

下野守

小山友井木の元祖

宗政

中込

淡路守

淡路位下

皆川乃祖

朔光

結城

上野

從五位下

行義

政義

下河邊左司

左衛門

政平

小河二郎

小河左祖

成行

足利大友

從五位下

家繼

足利孫左郎

重後しげのち。

大胡太帛おほこゝろのたへ

牛込のえうしごのえ。

有繼ありつぐ

足利七良あしひの七ら

成後なりつぐ

依野よの。

高綱たかね。

山上五帛やまのうえのい

山上礼やまのうえのれ

俊繼しゅんつぐ

足利右帛あしひのたへ

忠綱ちゅうつぐ

又右良またたへ

基繼もとつぐ。

依野右良よのたへ

依野の礼よののれ

信綱

木村五郎

孝經

長沼玄

秀基

次郎玄

秀忠

大尾三郎

美濃守

大尾の禮

丁 水家

魚通海

道澄流

師 補

右大臣 正二位

伊 尹

一條 玄

魚通

園白 右政大臣 從一位

贈正一位 忠義公 中 左 右 好 一 一

堀川殿 左 右 好 一 一

源光

右大臣 右大臣 從一位 右大將

東交傳 右 左 門 後

魚頭大臣 左 右 好 一 一

中多此 左 右 好 一 一

魚家

攝政園白

道隆

攝政園白 右大臣 從一位

中園白 左 右 好 一 一

休因。

口大臣 從二位

長徳二年四月二十四日奉小坐せら

ましく右宰相脚し下近せら

同日三月四日勅使とからりて於小

久野

大森云々亦此元祖

道魚。

宇都宮家乃祖 大久保此元祖 成卷一

見たり

戊 小家

道 兼 流

● 道 兼

關 白 右大臣 正二位

左大臣 正一位 兼 左大臣

兼 右大臣 兼 左大臣

世人 七日 關白 兼 左大臣

兼澄

正二位 中納言 左衛門督

栗田左衛門督と号す

兼房

中納言 右少将 正四位下

讃波守 海守

家園

宇都宮守 左衛門督

宇都宮一守の祖

家綱

八田権守

左衛門督 正三位と号す

知家

宇部守 三良守尉

武者所

大久保守 津野守 岩等の元祖

知家

右馬允 四良守尉

筑前守 八田守

知重

八田守 三良守尉 紀伊守

小田守

光重

小幡守

小幡の祖

五知

伊志良 二良為尉

知基

茂本三良

家政

完戸四良為尉

知尚

八田二良為尉

知氏

田中九良為尉

田中此祖

河家

伊賀守

高野為尉

山彦 やまひこ

伊達北元祖 いであきたげんそ

甲巻 まがまき

藤嗣 ふじつぎ

高房 たかふさ

● 真名 まな

龍馬取 りゅうまどり

己 み

水家 みづけ

利仁流 りにりゅう

時長

駐守府將軍

民部

當座

利仁

鎮守府將軍

武藏守

從五位下

殿用

祿文寮頭

從五位上

祿文寮頭

祿文寮頭 神

了あく世小初藤

吉信

加賀守 從五位下

忠賴

加賀守 加賀國

加賀守 乃祖

則高のりたか

越中権守えちうぢのぐんのかみ

助忠すけただ

能光のぶみつ

則季のりせき

権大夫ぐんたふ

季高せきたか

堀権大夫ほりぐんたふ

堀北祖ほりきたそ

云家いづな

從五位下じゆごいげ

家助いづなすけ

從五位下じゆごいげ

貞宗さだむね

豊前守ゆふぜんのかみ

林北祖はやしきたそ

重光しげみつ

豊后守ゆふごのかみ

貞正さだただ

源朝げんあさ

正重

從五位下

大連

景道

加賀女

修理少進

加友乃祖

加賀女

加藤

景清

加友五

顯念

景康

加友次

景約

在山上

在乃祖

伊傳

從上迄下

民部少輔

公則

後河守

則經

右衛門少輔

則明

後河守 口念人 後藤門と号と
松壽 郎從七郎の口なり

後河守 西山等乃禮

為延

小一条流 節刀長 氏前國に押使

為輔

修理少進 新發地禮

為形なりかた

坂本権介さかもと けんすけ

又田竹田乃祖またたけのたけのそと

則光すなわけみつ

台本四郎たいほんしろう

從五位下すいじゆういご

則重すなわけしげ

坂本権介さかもと けんすけ

助家すけけ

河合権忠かわい けんちゆう

實達まこと

加藤元かとう げん

實重まことしげ

南坂太みなみさか たい

実壹まこと

南友別苗 武列ぶりゅうと伝つたと

古井南友ふるいのみなともと号なづかと

加賀國藤原合戦かがのくにふじはらのあはれにありて討死うちころす

成実なりみ

たきつ耐

成行なりゆき

大郎 坂南さかみなと号なづかと

成利なりとし

初筑つづきの四郎 初筑つづきのの祖そ

●
内麻呂

庚ツ水ツ家ケ
志シ夏ツ海ケ
長チ良ツ流ケ
良リ方ツ流ケ
師シ尹ツ流ケ

大夏

刑部卿 兼左大臣 冬議 從三位
山陰道觀察使

濱雄

民部卿 從五位下

家宗

冬議 右大臣

弘蔭

大學頭 日向守 從五位上

繁時

大學頭 筑前守 正五位下

補道

太宰少貳

左少貳

正五位下

有國

太宰大貳

參議 從二位

資業

式部大輔

左衛門權左

左中辨

冬嗣

從三位 日野三任
日野乃祖

長良

參議 正三位 權中納言 從二位

左衛門督 贈右政大臣

松尾中納言 号良

遠經

從口徑上

右大辨

良範

太宰少貳

筑前守

從中徑下

純友

從父徑下

伊豫掾

三子大村小左衛門

良房

基經

忠平

良方

大藏大輔

糟屋小左衛門

實賴

小野文左衛門

方先... 子... 孫... 孫...

師し し

大だい 從じゆ 一いち 位ゐ 伊い 太た 子こ 傳でん

贈くわい 正せい 一いち 位ゐ 小せう 一いち 條じょう 大だい 從じゆ 一いち 位ゐ 伊い 太た 子こ 傳でん

定じやう 時じ

内ない 從じゆ 一いち 位ゐ 上じやう

實じつ 方ほう

大だい 正せい 中ちゆう 一いち 位ゐ 正せい 一いち 位ゐ 下げ

長ちやう 快くわい

熊くま 野の 別べつ 當たう

坂さか 心こころ 此こゝ 祀まつり

● 頼宗よりむね

右大臣
從一位
堀河公

● 道長ちみちなが

攝政

幸ゆき 水家みづけ

頼宗よりむね

長家ちなが

後家

右大臣 正二位 大宰右府と号す

宗俊

権大納言 正二位

中御門の一人

基幹

中務大輔

通基

右京大夫

通重

従四位上 丹波守

一條と号す

基家

正二位

権中納言

持明院

基家

從三位

加賀守

持明院

大膳乃祖

長家

権大納言

正二位

沙子

道家

教位

從五位下

長

筑前

友本系圖

貞信

次敷権守

系圖

資通しゆつう

資通しゆつう

資清しゆせい

資清しゆせい

資賢しゆけん

資澄しゆてい

明次めいじ与よ良ら

明次めいじ礼らい

久澄きゆうてい

福原ふくはら口くち郎らう

福原ふくはら礼らい

为澄ゐてい

户福寺とふくじ十郎じゅうらう

子こ礼らい

宗澄しゆてい

明次めいじ与よ一いち

明次めいじ葦野あしの等らう乃の礼らい

壬に南家えけ
為憲流むねのりゅう

● 武智麻呂むちまろ

加太長かたなが 正一位ただちが せいいちゐ

乙麻呂おつまろ

從三位すゐさんゐ 冬議ふゆぎ 治初卿ちしよけい

足公

從二位 左大臣
贈從一位 牛尾大臣

雄友

正三位 中納言 中務卿
民部卿 美作守 播磨守

新河

加賀守

高扶

淡路守

清夏

大少弁

維茂

為憲

從五位下 左少輔
左少輔 左少輔
左少輔 左少輔

老一之叔大夫と号し
二藤二階堂小礼

時理

従五位下

時文

相良礼

発本系圖よりこれとの並び
あはれ時理の弟と稱す

時信

後河守 従五位下

あはれ時理の令弟なりと号す

維清

入江右衛門

従五位下

維伸

二叔大夫

師し し し

原はら はら はら 權けん 守しゅ

原はら はら はら 礼れい

維い い い 綱きょう

和わ 越えつ えつ えつ 口くち 氏うぢ 大夫たいふ

清せい せい せい 綱きょう

島しま しま しま 邊へん 守しゅ

泰たい たい たい 繼けい

是し し し 部ぶ 權けん 守しゅ

是し し し 部ぶ 礼れい

近きん きん きん 綱きょう

奥おく おく おく 津つ 氏うぢ 氏うぢ

清せい せい せい 定てい

入いり いり いり 口くち 守しゅ

墨澄すみずみ

入江いりえと大入おほいり

発はつわわりりこれこれとのとのせせびび
ああらら記記ししこれこれああらら

墨光すみひかり

遠原とほはら

天野あまの友とも心こころ

玉たま神かみ礼れい

墨魚すみうなぎ

從したが又また從したが下した

遠魚とほうなぎ

淡河たんが権守ごんす

墨貞すみさだ

京義きやうぎ

馬うま三さん郎らう

經義きやうぎ

玄けん香かう三さん郎らう

魚貞いささだ

沢河中務丞さわがなかつむらぎのさむらひ

惟貞たださだ

船越三良ふねこし さんりやう
船越乃祖ふねこし のそ

惟景ただかげ

渡河守わたがわのり

惟職ただしやく

伊豆国乃押使いづのくにのおしつかい

惟次ただつぎ

枳野九郎あきのくわにやう

家次いへつぎ

枳野良大夫あきのらやうだふ

祐次すけつぎ

武吉所むけしよ

祐家すけいえ

六良大夫むらむら

祐也すけえ

河津二良かづしにら

祐道すけみち

河津六郎かづしむら

祐成すけなり

善家十郎ぜんかじゅうら

时家ときいえ

善祇五郎ぜんぎごら

祐忠すけただ

河津九郎かづしきゅうら

祜經こけい

之友このとも 太衝たいしゅう門かど尉ゑい

祜義こぎ

字あざな作な英ひこ三の良よし 字あざな依よ英ひこ乃の祜こ

祜時ことき

太衝たいしゅう尉ゑい 河東かとうの祜こ

巨勢こせ麻呂まろ

冬ふゆ議ぎ 式しき部ぶ卿きやう 從したが三の位ゐ

貞嗣まこと

中ちゆう細さい之の 右みぎ大おほ弁ひん 從したが三の位ゐ

高仁たかひと

交まじ心こころ卿きやう 保たも蔭かげ 相あひ掎かき反ひら

道明ちみん

大細おほこま 大弁おほひん

尹文いんぶん

播磨はりま 播磨守はりまのりやう

永新えいしん

重政しげまさ

中文ちんぶん 権亮けんりやう

山井やまゐり 三任さんにん 号ごう

能通のうとう

大兼おほかね 兼依かねよ

実範じつはん

大守おほしゆ 政まさ

季急ききゆう

三河さんか 良太夫りやうたふ 号ごう

季範きはん

热田あつた 大守おほしゆ 司し

範信はんしん

上野うの 号ごう

憲^{のり}約^し

八條院の判^{はん}友^{ゆう}代^{だい}

範^{のり}後^ご

大學^{だいがく}助^{すけ}

範^{のり}親^{しん}

増^ま冠^{かん}者^{しや}と^と号^{ごう}以^い 増^ま冠^{かん}此^こ祖^そ

季^ま綏^{すい}

右^{みぎ}衛^ゑ門^の橋^{はし}本^{もと} 從^{したが}口^{くち}從^{したが}上^{うへ}

實^{じつ}惠^ゑ

進^{しん}士^し 加^か賀^が掾^{げん}

通^と憲^{のり}

日向^{ひやうがほ}守^し 少^{すく}納^な言^{げん} 正^{ただ}五^ご位^い下^げ
江^え名^な信^{しん}西^{さい}

長門守高階經敏が子にありて姓を
あ〜むとされども子孫にれ本姓
久保 大道寺にえ祀

矣

文海

諸家歛むる所の系圖元祖ありこれ
相續はるもれりこま〜れ
或るにけり〜元祖乃名と祀
誰系の好胤や稱するものある或
これ稱号發本系圖の〜びは日記
〜い〜のありかくれ〜とき
乃を〜祀述のあやまられ〜

あつてついでに披覧するに
ついでに友と本より考へ
稱号をさすごとく出まの礼と
その名とありて家傳より元祖と
稱するをこれとてついでに披覧の讀ま
しむるをこれとすれば海よのせき編次
る事上のことと又ありて家傳
る友と稱するをこれとてこれを
祖名といふは系嗣とほりびに

世に祖稱するをさすに友たりを
しむるをこれありありとて家傳の
稱するをこれとすれば祖名といふは
さすありて テ曰多橋ホレ ありてはその
祖と記すに名氏ありともいさす
そのありて 青山三宅美目比を大屋
大原守の ありては
いさすに いさすに ありては
かたは かたは ありては
一く支傳とす

